

リハビリテーション医療で心理職に望むこと

The expected role of psychologists in rehabilitation medicine

国民の心の健康を増進することを目的とした公認心理師法が2017年9月15日に施行され、2018年9月9日に第1回の公認心理師試験が実施されました。この国家資格制度の導入により、リハビリテーション医療の領域においても、心理職との連携がますます高まることが期待されます。そこで、本特集では、リハビリテーション医療チームの一員として活躍している心理職の現状と課題に続いて、高次脳機能障害、精神疾患、発達障害、およびがんのリハビリテーション医療において心理職に期待される役割について解説していただきました。

現状と課題 中島恵子氏 911

心理職の国家資格制度化までの経緯とともに、リハビリテーション医療における心理職の現状と課題について解説した。心理職は、神経心理学に基づいた評価、臨床心理学の十分な知識を有してさまざまな心理療法、学習理論に立脚した行動療法的心理学を応用したさまざまな技法、社会心理学の知識を活用したチーム医療の推進、職業リハビリテーションにおける心理学的アプローチ、そして障害者とその関係者との相互作用への支援を行っている。今後の課題としては、神経心理学的視点の養成、医療チームや地域社会に対する情報提供などがある。

高次脳機能障害診断に必要な神経心理学的評価の実際 中島八十一氏 915

高次脳機能障害に対するリハビリテーション医療において心理職がかかわる業務は、神経心理学的検査を駆使して評価することと心理調整や認知療法などを通じて治療・訓練を行うことである。高次脳機能障害の診断基準は、医療では診療報酬の請求の際に、福祉では精神障害者保健福祉手帳の申請の際に用いられているので、高次脳機能障害の診断を確実に行うことはすべての支援の始まりである。このことを考慮して、本稿では高次脳機能障害を診断するための神経心理学的検査の進め方とその際の注意点について症例提示を交えて解説した。

精神疾患 中嶋義文氏 921

精神障害者およびその家族などに対して、地域包括ケアシステムの構築が進められているなかで、心理職を含めた多職種によるアウトリーチ支援事業が地域で行われるようになった。また、精神疾患を有する入院患者に対応する精神科リエゾンチームを設置する病院が、診療報酬加算の後押しも受けて、着実に増えている。精神科リエゾンチームは精神科的治療の必要性や導入、医療スタッフへの支援を行う。本稿では、精神科チーム医療の実践例として精神科リエゾンチームの活動を取り上げ、医療チームの一員として心理職に望まれることについて解説した。

発達障害診療における心理職の役割 原 郁子氏 927

発達障害に対する支援は、予防的介入である発達促進と二次障害の治療である危機介入からなり、本人や環境に対して働きかけることによって生活上の支障を軽減することが可能である。適切な支援を行うためには発達障害特性だけでなく多面的なアセスメントが必須である。心理職はこのような発達障害領域のアセスメントと支援に大きな役割を果たしてきた。そして、それらの内容はライフステージによって異なる。本稿では、幼児期、児童青年期、成人期の事例を紹介し、それぞれのライフステージにおいて心理職に期待される役割について解説した。

がん 金井良晃氏 933

がん緩和ケアを進めるうえで、苦痛症状を身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな要素で構成される全人的苦痛として捉えることは重要である。不安や恐怖を増すことによって疼痛がさらに増悪する悪循環が存在するため、不安や恐怖を少なくして疼痛に対処できる状態へ導くために認知行動療法など種々の心理療法が行われる。また、スピリチュアルな苦痛には傾聴が最大の援助である。がん緩和ケアは多職種協働が不可欠であり、心理職には疼痛の評価や心理療法にかかわるだけでなく、患者とのコミュニケーションの担い手になることが期待される。

お知らせ	第 8 回日本がんリハビリテーション研究会	926
	第 14 回日本シーティング・シンポジウム	945
	第 41 回総合リハビリテーション研究大会	979